



平成 15 年 10 月 16 日

高知学園短期大学に教室借用の事前折衝

高臨技：会長、両副会長、事務局長

大 学：山崎事務局長、野村総務課長

平成 16 年 3 月 31 日

高知学園施設有償貸付契約書

平成 16 年 6 月 13 日

事務所開設講演会・祝賀会

(高知学園短期大学・高知会館)

平成20年度学生支援活動

「細菌検査とグラム染色」

「尿検査」

「血液疾患の検査データ判
読と末梢血塗末標本観察」

H21年3月7日、3月15日、3月28日



2009年 リレーフォーライフ 初参加



高知学園大学・短期大学同窓会とともに

山地好市（衛生技術科 1 期生）

平成 17 年、同窓会の会長に就任して今日まで、多くの経験と多くの方々とのかわりを得ることができました。

昭和 30 年代後半、検査の需要増加のもと全国的に技師数の不足が深刻になり、県技師会が県に対して検査技師養成学校の設立を要請するという状況の中で、昭和 42 年 高知学園短期大学 開校、昭和 43 年 衛生技術科 開設。初年度の入学者は 120 数名で、大幅な定員オーバーで、講師の不足や実習器具、試薬の不足を生じた。開設にあたり、当初歓迎した検査技師会は入学定員の大幅増加に「高知学園の学生の臨地実習には協力できない」と病院実習が出来ないこととなった。その状況を改善したいという思いで、学校との交渉や学外への問題指摘のビラ配布などを繰り返す中で、当時技師会の副会長であった日赤病院の高田技師長を訪問し、臨地実習の受け入れを要請した際に理由を聞かされ、その後学校との話がすすめられ、臨地実習が可能となった。

私たちの場合、講師不足から休校が多く、又実習については、早朝 6 時ごろから自発的に器具や試薬の準備に入り、夜遅くまで頑張る学生も多くいた。

また、病院実習では、休みの期間、地元の病院に個別に依頼し、実現させる学生もいた。

卒業後、徳島の大塚製薬に入社、主に抗生物質の開発に当たる研究部署で細菌検査などに従事していたが、昭和 49 年 11 月、3 年 7 か月で退社し、高知赤十字病院に中途採用された。

そこでは、高田技師長が技師会会長と広報部を担当していましたので、編集委員として会報発行を手伝うことになり、2 年後から正式に技師会理事として会報発行に臨んだ。

当時はガリ版で年 4 回の発行で、検査室訪問や検査技師紹介、学会参加報告など、主に会員親睦をかなめに進めていた。その後会報は担当が変わるにつれて専門職団体である検査技師の論文等、学術的要素が中心となり、また国会図書館にも納められるようになってきた。

昭和 51 年から退職後の 4 年間、技師会理事として勤め、理事のほか血液・細菌などの班長、そして役員選挙推薦委員となった時期には、高知学園卒の技師を多く理事に迎え、技師会長にも卒業生をと考えていた。

そのことで、今後技師会と学校との連携も深めればとの思いでした。平成 20 年度頃から始まった一般・血液検査の学校実習室での衛生技術科学生への支援行事もその一つでした。

現役の検査技師から学ぶことで学生の知識や技術の向上と共に技師においても指導することから得られることは多くあり、共に成長できる機会となります。高岡先生や前田敦子さんも同時期に一緒に技師会にのめりこんでいた同期です。

平成 17 年、高知駅北にある「北欧館」において、星野さん、大野先生に同窓会会長の要請をいただきました。それまでも同窓会理事についた時期もありました。

この頃、学園卒の技師を技師会理事にという思いと同時に考えていたのが、技師会会長に民間病院で女性技師をつかせることでした。

これまでの技師会組織では、公的病院での持ち回りで、それぞれの技師長が事務局体制と同時に請け負ってきました。当時の各病院の技師長は技師会存続、発展に非常に積極的で責任感を保持していました。今でも歴代の会長及び技師長さんたちが思い浮かんでいます。技師会創立記念行事や中四国学会、高知県学会、検診事業、各部門での勉強会など多くの事業をこなしてきました。

ただ、医療情勢や社会情勢の変化と共に院内での事務局設置や技師会活動が困難になってきました。その中で継続的な事務所確保のため、高知学園の空き教室を使わせていただき、その後現在の高知県安心保健センターでの事務局設置となっています。

同窓会会長の要請をいただいた頃、平成 19 年の中四国臨床検査学会が高知で開催することになっていました。そこで、高知県ならではの学会にということで、先の民間病院の女性を会長にすることになり、各公的病院の技師長に会長をサポートし記憶に残る学会を成し遂げようとなりました。平成 19 年の中四国学会は記憶と、記録に残る学会として成功したと思います。この学会に向けて懇親会に披露すべく、「技師によるバンド（高臨技バンド）」や、「よさこい連」を結成し多くの県外技師に楽しんでいただいたと思っています。

同窓会会長の任務を受けたのは、ある面では、学会成功への後押しにもなるという考えもありました。

「人間の意識は客観的な状況に規定される」という言葉があります。

私の場合、自主的な意思、行動よりも、置かれてきた状況によって成長させてもらった、ということがほとんどです。高知学園短大での改善要求行動で中心的な役割を与えられたのが今日の自分形成になったと思います。そしてその後を与えられた同窓会会長の立場として、多くの経験をさせていただきました。

短大の周年ごとの行事や評議員、校友会などへの参加。卒業式や入学式、多くの若人の希望に満ちた出発を近くに感じられた様々な行事。同窓会会長ならではの特権でした。本当にありがとうございました。